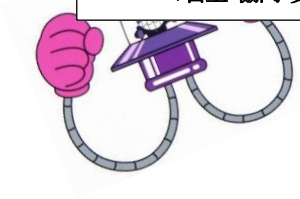
応神中学校だより
校長　岩野　伸哉
令和8年10月5日

文窓の若葉

No. 5

「自主･協同･責任」の精神で、たくましくしなやかに生き抜き、我が国と郷土を愛し夢と志あふれる心豊かな生徒の育成





愛と勇気そして優しさ

いけ！みんな(と自分)の夢ままもるため

２日間にわたる文化祭では、少ない準備期間と限られた環境を乗り越えて、生徒会を中心に各学年で知恵を絞り、アイデアと工夫が随所にちりばめられていました。「皆で楽しめる文化祭に！」という応神中生の優しさにあふれた、温かい文化祭でした。表現の部では、音響トラブルに見舞われながらも仲間を気遣い、一緒に盛り上げようとする姿に感動しました。応神ファミリーの一体感がいかんなく発揮された素晴らしいひとときとなりました。

奉仕作業では、除草作業や側溝清掃に、楽しみながらも真剣に取り組みました。片付けの時には、先生方や保護者の方に「もらいます」と声をかけ、道具を持って行ってくれた生徒がいました。ここでも、生徒の心遣いや優しさを感じることができました。



普段の清掃でも、自分の分担場所が終わって、「手伝います」と手を差し伸べてくれたり、後に使う人のためにトイレのスリッパを並べる頻度も少しずつ増えたりしています。そんな応神中生の優しさに触れるたび、嬉しくて幸せな気持ちになります。

アンパンマンに負けない「愛と勇気と優しさ」が、応神中生の「強み」になると思います。

皆でつくる応神中という最高の作品

生徒会新体制へ



いよいよ応神中生徒会も新体制です。10月2日(金)には新役員選挙に伴う立会演説会がありました。それぞれの候補者が、中学校生活をよりよいものにしていくために、生徒会としてどのようなことに取り組むか、具体的な公約を熱い思いをもって訴えました。どの候補者の訴えも説得力があり、堂々とした立派な演説でした。

聴く側の「有権者」の生徒も、真剣な表情で立候補者の言葉に耳を傾けていました。人任せではなく、よりよい応神中をつくっていこうとする、当事者としての意識の表れだと思います。

投票後は、選挙管理委員会で即日開票されました。大接戦でした。皆がそれぞれの候補者の思いに共感し、自分の考えをもって自らの意思で投票してくれました。

これまで素晴らしい学校生活をつくってきた先輩方の成果を受け継いで、新生徒会を中心にこれから応神中という「作品」がどこまでレベルアップしていくのか、本当に楽しみです。

【保護者の皆様へ】～ＰＴＡ奉仕作業に御協力ありがとうございました～

奉仕作業では、たくさんの保護者の皆様が参加してくださいました。生徒、保護者、教職員が一緒になって取り組み、一体感を感じました。

応神中学校の良好な環境の維持につながる有意義な活動になりました。



御参加くださいました保護者の皆様、ありがとうございました。



視点を合わせてみる

皆さんは、友達と話をしていて「そんなつもりで言ったんじゃないのに」と思うことはありませんか。一生懸命に理由や根拠を説明しても、言い訳や押しつけにしか捉えられなかったり、同じノリで返してくれると思ったのに、予想外に反発されたりしたことはありませんか。

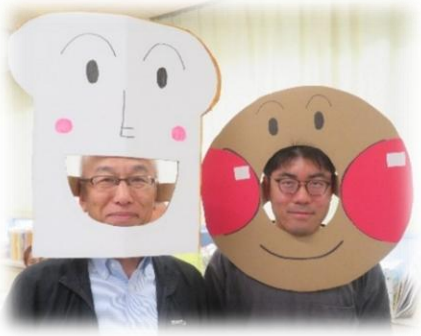


そんなとき、自分の意図を的確に伝えるための心がけとして、「相手の立場に立って考えよう」とよく言われます。では、「相手の立場に立つ」とはどういうことでしょうか。

私は、「視点を合わせる」ということだと思います。

例えば、同じ風景を見ていて、友達に「あそこの木の右側にＵＦＯが見える」と言われたとします。たぶん、あなたは必死になって、前方にある木の右側を、目を凝らしてくまなく探すと思います。でも、あなたには見えません。

そのとき、皆さんはどう反応しますか。「嘘をつくな。おまえは嘘つきだ！」と、その友達に怒るかもしれませんが、優しい皆さんはおそらく、その友達にできるだけ近寄って同じ目線で見ようとすると思います。「相手の立場に立つ」ということは、相手の視点に立つことでもあると思います。真ん中にあるものも、左側に立てば右に見え、右側に立てば左に見えます。同じ事実であっても、立ち位置、つまり視点が違うと物事は違って見えたり、あるべきものが見えなかったりすることがあります。



見る位置を変えれば、木の陰に隠れて見えなかったＵＦＯも見えるようになります。そしてあなたは、「あれはＵＦＯじゃないと思うな。アンパンマンだ。マントがヒラヒラしているから。」と自分の考えを的確に伝えることができます。



つまり、「相手の視点に立つ」ということは、相手の位置に自分から動くことです。そのためには、物事を自分がどこから見ているか、確認しましょう。自分の考えを整理しましょう。まずは自分の立ち位置を把握し、視点が相手とズレていたら、つまり相手の考えと違っていたら、その人になったつもりで、自分で動いて視点を合わせると良いと思います。

それは、自分の考えを曲げたり、無理矢理に変えたりするということではありません。「そこから見たらそう見えるのだな」と確認することです。

自分が動くということは、心を近づけるということです。同じ風景を見るように、相手の気持ちに近づき、視点を合わせましょう。そうすれば相手の見えている景色、つまり相手の思いがわかり、自分の考えを相手が理解できるように伝えることができるような気がします。

相手と同じ景色を見ようとすること、それが、「相手の立場に立つ」ということであり、「寄り添う」ということではないでしょうか。

徳島市応神中学校
TEL　088-641-1019　　電話対応　7:30～19:00（土日祝は除く）
【学校ＨＰ】　https://school.e-tokushima.or.jp/jh_oujin

